

転倒予防センサー使用患者の 転倒発生件数を減らそう！ 歯止め報告

【サークル名】 てんとう

【所 属】 医療安全管理委員会 リスクマネージメント部会

【メンバー】 大石芳彰（医師）・栗屋禎一（医師）・小林隆幸（医師）

富士原則子（看護師）・山崎真紀子（看護師）・廣畑佑真（看護師）

池田秀俊（事務職員） 楨原伸一（理学療法士）

1. 昨年度の活動

テーマ：転倒予防センサー使用患者の 転倒発生件数を減らそう！

対 策：①転倒転落アセスメントシートの改善

②転倒転落予防センサー選択チャートの作成

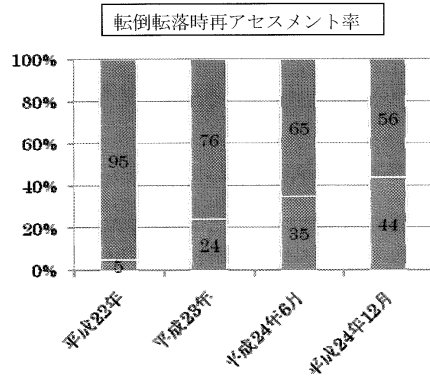
結 果：転倒転落件数の削減ができた！

2. その後の状況

転倒転落アセスメントシートおよび転倒転落予防センサー選択チャートは日々の業務で転倒転落予防対策として使用されている。そこで今回、その使用状況を調査したので報告する。

① 転倒転落アセスメントシートの使用状況

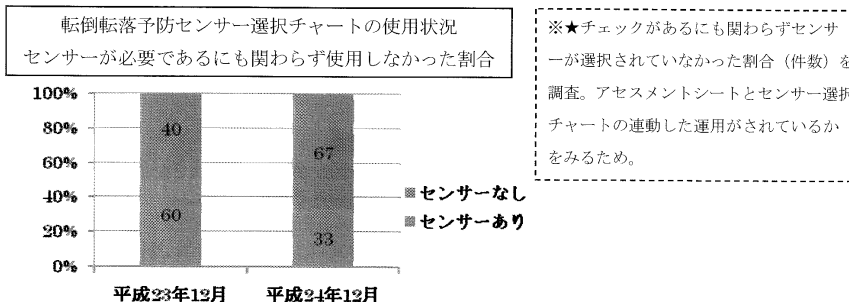
転倒転落時再アセスメント率を指標に調査した結果、活動終了後から現在まで再アセスメント実施率は増加傾向を示した。しかし、アセスメント率は50%に至っておらず今後さらにアセスメント率を上げる必要がある。



※（平成 22 年 11～12 月：n=37）と（平成 23 年 11～12 月：n=45）と（平成 24 年 6 月：n=20）と（平成 24 年 12 月：n=18）を比較。

② 転倒転落予防センサー選択チャートの使用状況

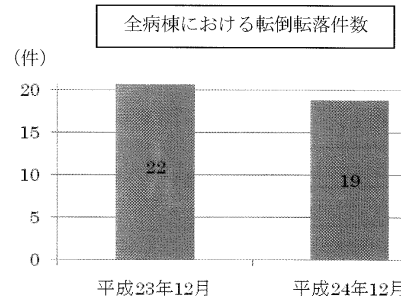
センサーが必要であるにも関わらず使用しなかった割合を指標に調査した結果、センサーの使用率は低く、センサー選択チャートは有効に使用されていないことが示唆された。その要因としてはアセスメントシートとセンサー選択チャートの連動した運用方法が知られていない他に、センサーの数が足りなくて使用できなかった可能性やセンサー選択チャートの精度（実用的であるか等）に問題があった可能性も考えられるため、それら様々な要因を考慮し検証していく必要がある。



※★チェックがあるにも関わらずセンサーが選択されていなかった割合（件数）を調査。アセスメントシートとセンサー選択チャートの連動した運用がされているかをみるため。

③ 転倒転落件数

全病棟における転倒転落件数は減少傾向が示され活動の成果とも考えられるが、多くの要因が関与しているためその有効性については細かく検証する必要がある。



※全病棟における平成 23 年 12 月と平成 24 年 12 月の 1 ヶ月をサンプルとして調査。

3. まとめ

昨年度、転倒予防センサー使用患者の 転倒発生件数を減らそう！をテーマに、転倒転落アセスメントシートの改善と転倒転落予防センサー選択チャートを作成し、転倒発生件数を削減することができた。

その後、再アセスメント率は増加傾向であったが実施率は低く更に向上する必要がある。また、センサー選択チャートは有効活用されていないことが示唆されたため、その要因を分析し改善策を検討する必要がある。更に、転倒転落件数は減少傾向が示され、活動の成果とも考えられるが、多くの要因が関与しているためその有効性については細かく検証する必要がある。

今後は、まずは転倒転落アセスメントシートの使用率を向上し、その上で転倒転落の要因を再分析し更なる対策を立案していく必要があると考えられた。